

Ikiiki
Maebashi
Jin



おうちごはんは交流の場を生む



シンポジウムでパネリスト
中村 実紀さん・37歳
箱田町

9月5日(土)に開催される前橋創生を考えるシンポジウム。その中で、パネリストとして登場する。初めての舞台だが、自分の思いを語る予定だ。

前橋創生の鍵は人と人とのつながり。中村さんはつながりを広げるため、食のイベントに参加。料理教室も開催していて、仲間と新前橋駅前イベントを行ったこともある。人とのつながりが広がったことで、意外な発見もあった。「祖母が戦後の苦しい時代、縫い物を作り家計を支えたことを人から聞きました。祖母が縫い物ばかりしていた理由が分かりました」

介護している母に、少しでも手を加えた「おうちごはん」を出すのが弾んだことが開業のきっかけだ。

「商品は、少し手を加えるだけでおいしく食べられます。誰でも簡単におうちごはんが食べられるので、食事の時間を楽しんでもらいたいです」また、店舗を生パスタの店にしたのは理由がある。「小麦を使ううどんの文化が群馬に根付いていることを聞いたから。おいしいごはんの前では、知らない人同士でも会話が弾みます。年齢や性別を超えた交流の場になります」人と人をつなぐ「おうちごはん」を広げる中村さんの活動はこれからも続く。



古城春樹さん

高良健吾さん

幕末の息吹目の前に

8月1日から9月6日まで、アーツ前橋でNHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」を開催。貴重な資料を展示しています。オープニングイベントには、高杉晋作役の高良健吾さんがゲストで登場。下関市立長府博物館館長の古城春樹さんの記念講演も行われ、雰囲気盛り上げました。



親子で楽しく絵本作り

7月28日と29日にこども図書館で、「牛乳パックでビックリ絵本をつくろう！」を開催しました。説明を熱心に聞き、色紙を貼ったり好きな絵を描いたりして、牛乳パックがだんだんカラフルに。親子で力を合わせ、世界で一つの素敵なビックリ絵本を作りました。



伝統の暴れ獅子が厄払い

7月25日・26日に大胡祇園まつりを開催。子どもみこしや八木節、だんべえ踊りなど、さまざまな催しが行われました。2日目の暴れ獅子で祭りは最高潮に。獅子が荒々しく家々を練り歩き、厄を払う様子は迫力満点。伝統の祭りで町が熱く盛り上がりました。



ごみ減量大作戦

□紙や衣類は貴重な資源
紙や衣類を燃えるごみに出していませんか。これらを出すと分別すれば、貴重な資源に。ごみを減らすエコライフは、「くらし上手」にもつながります。衣類は選別後、海

ちよつとした工夫で日常生活は快適になります。この連載では消費生活啓発員が日常生活に役立つ情報をお知らせ。第3回は、「ごみ減量」についてです。



外で再利用。素材を生かしたリサイクルもされています。衣類などは季節の変わり目に整理するのも一つの方法。そのたびにビニール袋や紙袋に分別しておく、出すときに楽です。平日はリサイクル庫を活用するのもお勧めです。

□回収できる物の分別方法

●紙類
新聞紙やダンボール、雑誌、紙パックなどは種類ごとにまとめて。包装紙やお菓子の箱、封筒、パンフレット、カタログ、メモ用紙、トイレレットペーパーの芯などの雑古紙は紙袋に入れます。

●衣類
衣類全般が対象。着物や帯、下着、帽子、ベルト、ネクタイ、ダウンジャケット、バッグ、靴、シューズ、毛布、カーテン、ぬいぐるみなど、しみがあつたりボタンが取れていたりしても大丈夫。ボタンやファスナーが付いているときはそのまま。

□回収できない物
はんでん、ブーツ、スリッパ、長靴、スリッパケース、学生カバン、ランドセル、ペット用に使ったもの、布団類、枕、カーペット、じゅうたん、などは回収できません。

問い合わせは 消費生活啓発員の会
027-230-1755